

「アジア医師連絡協」(岡)の2人

比で家族計画指導

NGO、初のODA参加

国際協力事業団(JICA)が進めている政府開発援助(ODA)「フィリピン家族計画・母子保健プロジェクト」に今月から、アジアを中心に医療援助を行っているNGO(民間活動団体)「アジア医師連絡協(本部・岡山市、菅波茂代表)」のメンバー二人が加わった。同事業団が、同協議会に依頼したもので、二人は現地で助産婦に対する保健教育などを行う。ODAにNGOのメンバーが参加するのは国内で初めて。

派遣されるのは、大阪府豊中市服部本町、田中政宏医師(三〇)(公衆衛生学)と東京都文京区本郷、井上肇医師(二九)(国際保健)。今回、プロジェクトが実

施されるのは、首都マニラ市の北約百キロのタルラック市周辺地域。同事業団によると、同地域の助産婦と保健婦は十分な教育を受けていないうえ、人数も少ない

ため、効果的な活動ができ、いないのが実情。妊婦の破傷風感染率などが高く、五歳未満の子供の死亡率も、十万人当たり六十人で日本の約十倍。田中、井上両医師は現地

で、同国保健省職員、同事業団職員らと協力して地域内を巡回、破傷風ワクチンの接種作業などを手伝うほか、ビデオや紙芝居などを使って助産婦らを対象にした保健教育セミナーを開く。任期は一年。プロジェクトを企画した同事業団の鈴木英明・医療協力部第一課長(四二)は「現

在、ODAとNGOの協力体制ができておらず、ちぐはぐな状態。今回を契機に、行政レベルでの交渉や手続きなどは事業団が担当し、ノウハウを持ったNGOが現地で効果的な作業に当たる、といった官民の相互補完の関係ができれば、今後の海外協力でもっといい結果を出せるのでは」と期待を寄せている。



予防控種にあたる国際協力事業団職員とフィリピン保健省職員ら

話している。菅波代表は「われわれの技術の高さが評価されたと思っている。効果的な海外協力を行うためなら喜んでメンバーを派遣したい」と